

令和5年度 東京都内湾水生生物調査 5月成魚調査速報

●実施状況

令和5年5月15日に成魚調査を実施した。調査当日は若潮で、干潮が8時12分、満潮が13時54分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は1.9~2.6mであった。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:00-11:15		11:23-12:40		12:44-13:54		13:55-15:10	
水深(m)	25.5		15.5		14.7		11.4	
天候	曇		曇		曇		曇のち雨	
気温(°C)	18.9		18.9		19.1		18.4	
風向/ 風速(m/sec)	N/4.5		NNE/4.7		N/4.2		NNE/7.4	
波浪(m)	0.5		0.3		0.5		0.5	
透明度(m)	2.6		2.1		2.2		1.9	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	18.5	16.8	19.0	17.5	18.8	17.5	18.8	18.1
塩分(-)	30.5	34.3	25.1	32.7	28.4	32.9	28.3	31.9
DO(mg/L)	10.2	5.5	8.6	3.6	10.1	2.6	11.0	6.6
DO飽和度(%)	132.0	70.3	107.4	46.4	128.7	33.0	139.6	84.3
pH(-)	8.4	8.0	8.1	7.9	8.3	8.1	8.3	8.2
水の臭気	微魚腐敗臭	なし	中魚臭	なし	なし	なし	微魚臭	なし
備考								

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ハタタテヌメリ(m) テンジクダイ(r) マコガレイ(r) ハシキンメ(r)	ハタタテヌメリ(c) マハゼ(r) コモチジャコ(r) マコガレイ(r)	ハタタテヌメリ(c) マコガレイ(+) マゴチ(r)	(出現せず)
魚類以外 (目立った種)	オウギゴカイ(m) ケブカエンコウガニ(m) シャコ(m)	エビジャコ属(c) キセワタガイ(c) トリガイ(c)	シャコ(+) トリガイ(r) イッカククモガニ(r)	ホンビノスガイ(c) エビジャコ属(+) トリガイ(+)
備考	上記の他、フタホシイシガニ、テナガゴブシガニ、タテジマウミウシ科等が確認された。	上記の他、ダンゴイカ科、ゴイサギ、クシノハクモヒトデ等が確認された。	上記の他、サルエビ、オウギゴカイ、ブンブクチャガマ等が確認された。	上記の他、イッカククモガニ、シャコ、トゲアメフラシ等が確認された。

注)表中の( )内の記号はだまかな個体数を表す。

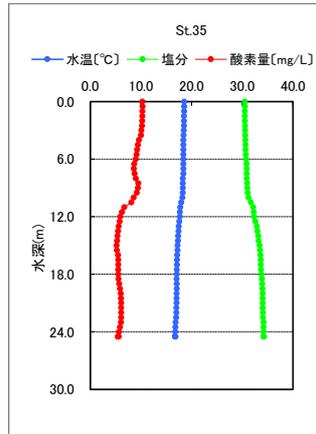
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況

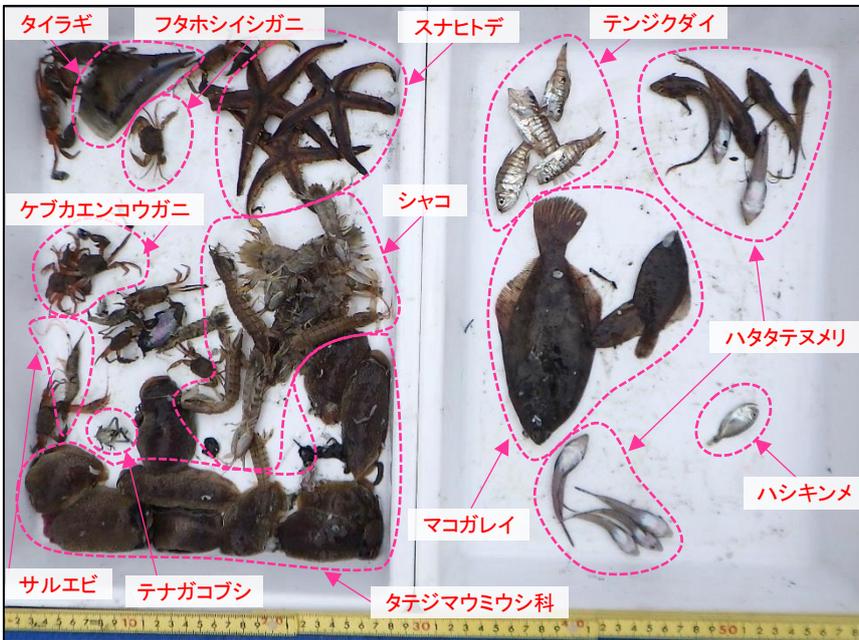


地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



体長10cm程になる。砂泥底に生息するウミウシの仲間。体は楕円形で扁平である。周縁の裏側(腹側)に、体側に沿って並ぶ特徴的な鰓板がある。ウミエラなどの刺胞動物を食べる。

本地点では昨年度5月の調査にもタデジマウミウシ科が出現した。

主な出現種 ※写真のスケール1目盛:1mm



水深300~600mに生息するキンメダイ目の深海魚。腹側にギザギザに発達した鱗があり、稜線状になっている。横浜市沖の水深20~40mの砂泥域において底曳網で採集された記録があるが、本調査では初記録となる。



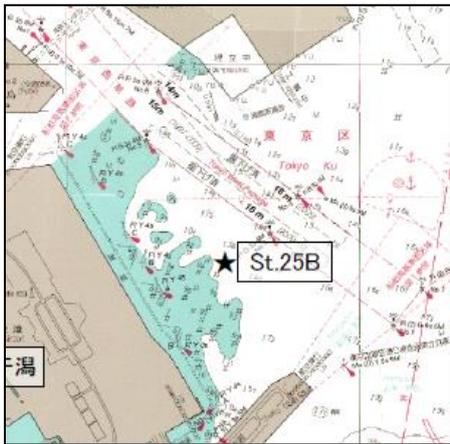
東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は7~10月で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。



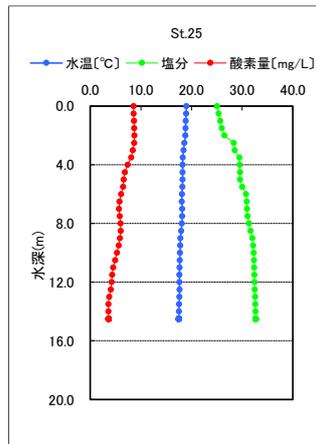
東京湾では普通に見られるカレイの一種。成魚は全長45cm程まで成長する。水深100mより浅い砂泥地に生息し、ゴカイ等を食べる。仔魚の時は左右に目がついているが、次第に左目が移動し、最後には体の右側に両目が揃う。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況

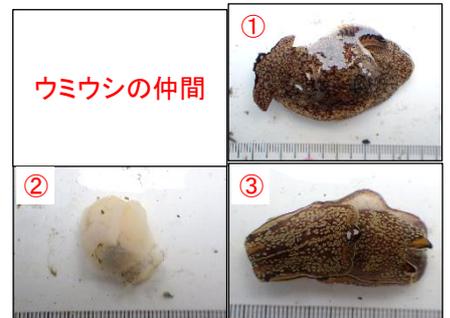


地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



ウミウシの仲間

- ① ウミフクロウ
- ② キセワタガイ
- ③ カノコキセワタ

これらウミウシは巻貝の仲間である。このうちウミフクロウは殻を持たないが、キセワタガイとカノコキセワタは軟体部に覆われた中に薄い殻がある。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



ハタテヌメリ

全長 14 cm 程になる。夏は湾中央部のやや深い場所に生息し、秋から春にかけて湾奥部にも分布する。この回遊は夏の貧酸素水塊発生が影響していると考えられている。産卵期は 2~11 月。



コモチジャコ

アカハゼによく似るハゼの仲間。比較的深所の泥底から砂泥底に生息する。東京湾全域から出現記録があるが、現在は主に湾奥に分布する。産卵期は春。

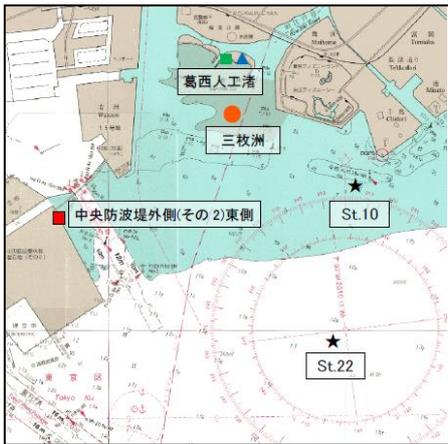


マハゼ

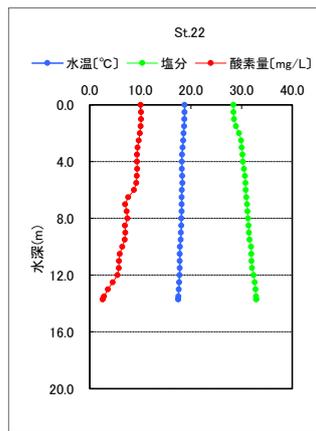
東京湾を代表する魚の一つ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。

調査地点：St. 22

調査地点位置



水質状況

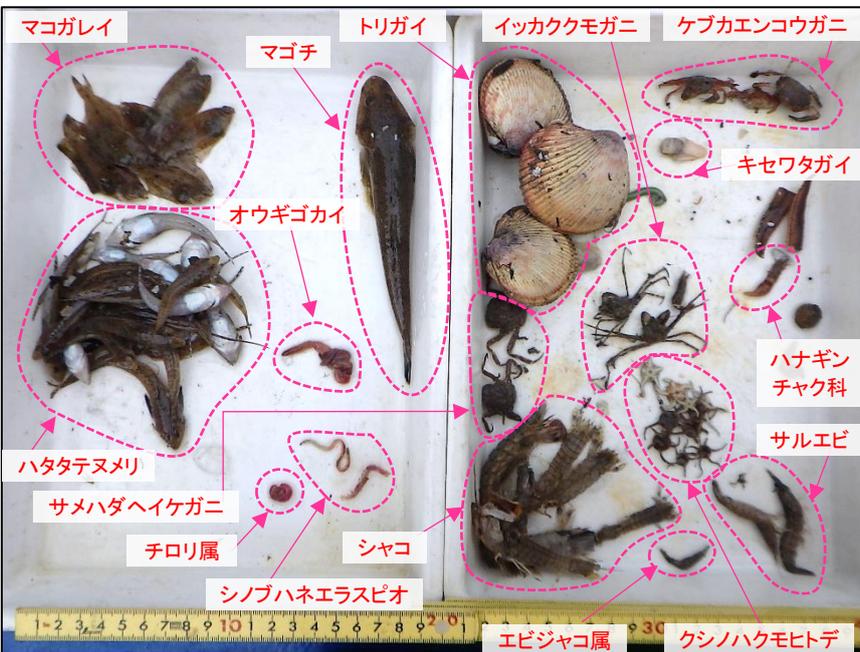


地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



砂泥底に生息する変わった形のウニ。普段は砂の中に潜っており、管足を用いデトリタスを食べている。上面の棘の下には5本の歩帯が花弁のように広がっている。



下面に口がある

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



褐色の帯が入る平べったい体の特徴。内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息し、底生物や小型の魚類を食べる。稚魚は干潟域等の浅所で生活し、成長とともに深所へと移動する。



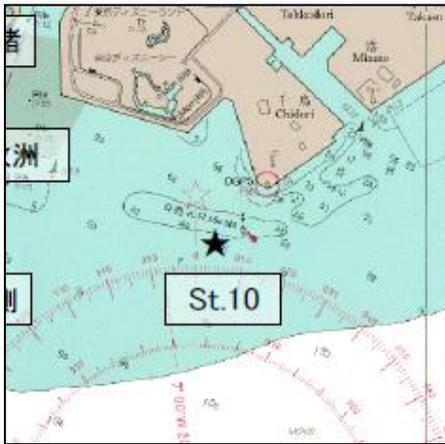
河口の汽水域や内湾の砂泥底に、大小 1 対の口を持つ U 字形の巣穴を掘って生活する。東京湾では水深 15~30m に生息し、他の水生動物を強大な捕脚を用い捕食する。



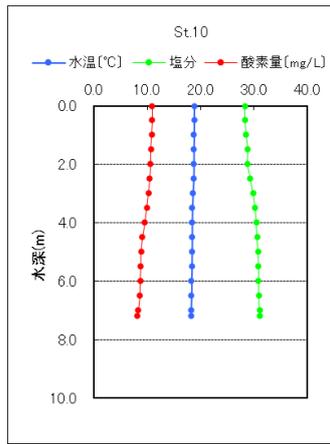
全長 20 cm 以上になる大型のゴカイ類。東京湾の泥底~砂泥底では、貧酸素状態の期間を除き、普通にみられる。初夏に生殖群泳を行うが、その際メスの体色は緑色になる。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況

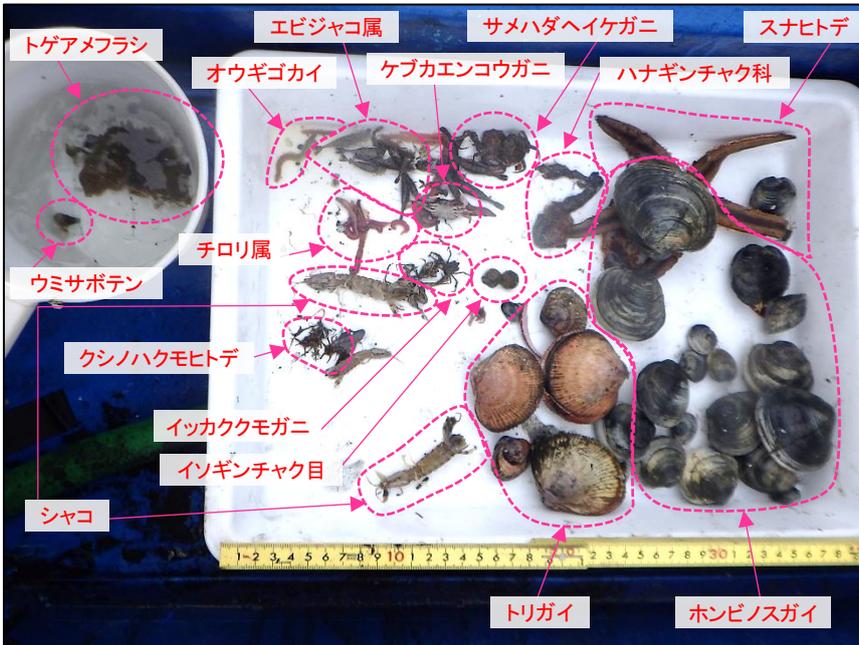


地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



北米原産の外来種で、殻長10cmを超える大型種。殻は本来白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。東京湾では湾奥部の泥底やカキ礁周辺で多くみられる。近年、主に千葉県で漁獲されたものが市場に流通している。

主な出現種 ※写真のスケール1目盛:1mm



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獐猛で、稚魚等を捕食する。



ほぼ球形で、殻は薄く脆い。長い足が鳥の嘴に見えることが名前の由来。内湾の砂泥底に生息し、湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生により、ほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は翌年春に60mm程まで成長する。



ウミウシと同じ巻貝の仲間。肉食性のウミウシと違いアメフラシは海藻類を食べるが、本種は藍藻を食べる。背面を木の枝のような突起が覆い、刺激を受けると煙幕を張るように紫色の液体を出す。浅い砂泥底に生息する。